

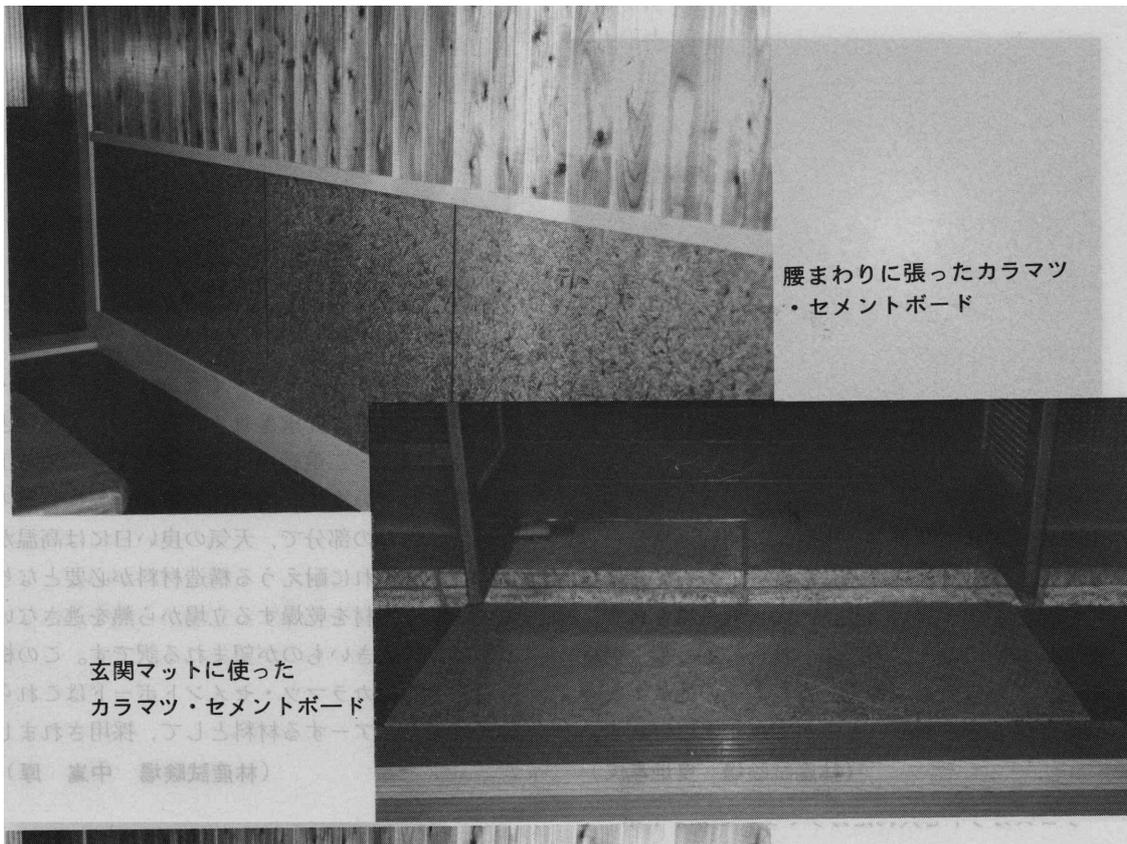
セメントボードを使ってみて

用途の多様化をねらって

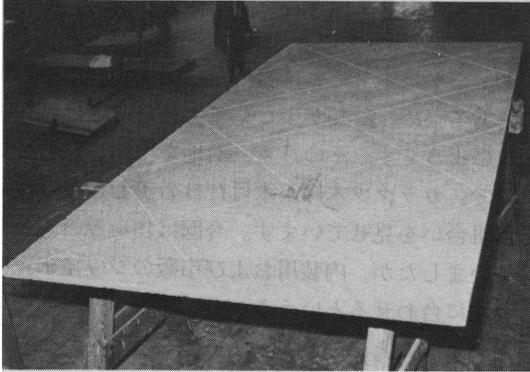
腰壁と玄関マットに使ってみて

昭和60年 3月に林産試験総務部長室の内装の模様替えをしました。その際、腰壁（高さ0.9m、面積5.5㎡）にカラマツ・セメントボード（厚さ15mm）を試用してみました（写真下）。H型ジョイナーで釘および接合部分を目隠ししながら取り付け、塗装はポリウレタン吹き付け 2回塗りとしました。元来、腰壁には丈夫な材質を要しますが、セメン

トボードは十分それに適合しています。また硬質であるため、釘類が少なくても狂いなどは見られないようです。そのうえ、素地を生かした塗装なので、カラマツ木片が木目だけの美しさとは違った肌合いを見せています。今回は15mm厚のものを使いましたが、内装用および市販のジョイナーの寸法に合わせるという点から、もっと薄いものでもよかったと思います。



昭和60年2月，林産試験舎正面玄関にマットの代用としてカラマツ・セメントボード（91×182 cm）を1枚試用しました（写真9頁下）。30cm間隔で互いに直交するU字カット（幅5mm，深さ3mm）を入れ，一見フローアーに見えるような加工をしました（写真下）。



クロスカットを入れたカラマツ・セメントボード



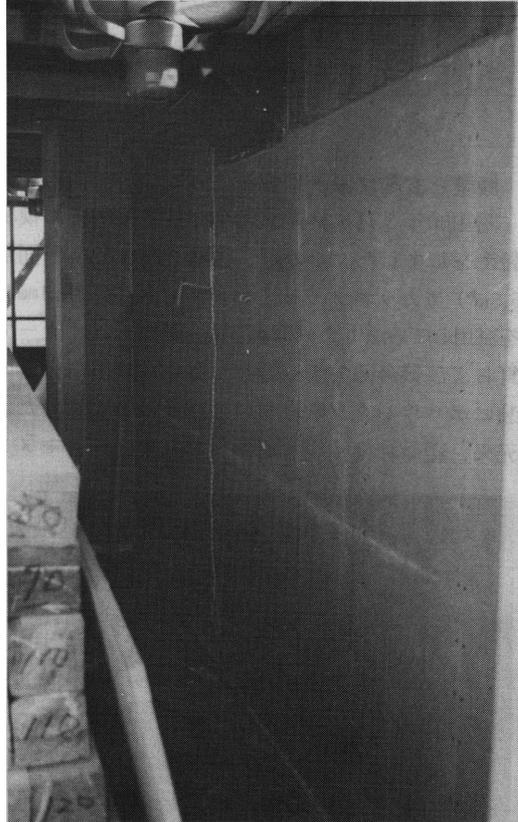
ポリウレタン塗装したカラマツ・セメントボード

塗装は場所柄から言ってかなりの通行量があると思います，ポリウレタン（床用）3回刷毛塗りしました。8カ月程度経過した現在においても，狂いや摩耗については特別目につく変化は見られず，冬場においては入口床のすべり止めとして大変役に立っていました。着色，カットその他に工夫を凝らせばもっと面白いものができると思います。

（林産試験場 曳地孝夫）

蓄熱材としての利用

太陽熱エネルギーを積極的に取り入れて木材を乾燥するソーラー・ドライヤーの南壁に10枚のカラマツ・セメントボードを使用しています。



南壁に用いているカラマツ・セメントボード

このようなソーラー・ドライヤーは特に高気密・高断熱性が非常に要求される装置であり，木造とはいえ外断熱・二重層構造で温室効果を高める工夫が施されています。南壁は集熱器と乾燥装置内との間仕切りの部分で，天気の良い日には高温が予想され，それに耐えうる構造材料が必要となります。また木材を乾燥する立場から熱を逃さない蓄熱効果の大きいものが望まれる訳です。このような背景から，カラマツ・セメントボードはこれらの条件をクリアする材料として，採用されました。

（林産試験場 中嶋 厚）